

TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭] 実行委員会 設立趣意書

TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]は、文化の祭典でもある東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた気運醸成のため、誰もが音楽の楽しさを体感・表現できる音楽祭として 2018 年に誕生しました。東京都交響楽団を中心に、東京芸術劇場や豊島区などの協力のもと、サラダ = SaLaD の由来である「Sing and Listen and Dance (歌う！聴く！踊る！)」をコンセプトに、赤ちゃんから大人まで楽しめるフレッシュで多彩なプログラムを展開してきました。

しかし、2019 年末からまたたく間に広がった新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、人々の生活様式のみならず、音楽芸術のあり方にも変革をもたらしています。サラダ音楽祭も例外ではなく、2020 年度、2021 年度と多くのコンサートを中止したほか、出演者同士のソーシャルディスタンスの問題や、公演会場における厳格な感染予防対策、オンライン配信やデジタル技術を活用した音楽体験の提供など、様々な課題と向き合いながら取組を進めることとなりました。

一方で、コロナ禍は、人と人とが認め合い、違いを超えて共感し、心を繋いでいく、音楽の持つ本来の力や大切さを再確認する機会にもなりました。こうした変革の時代にこそ、誰もが本格的な音楽に気軽に触れられる機会を創出することがこれまでも増して重要となっています。東京 2020 大会のレガシーであるサラダ音楽祭は、音楽芸術を通じて多様性や調和、未来への承継を実現し、コロナ禍からの人々の心の復興に資するものとして、今後ますますその価値を高めていくものと考えます。

そして、このサラダ音楽祭を、多くの都民が音楽の楽しさを体感できる魅力ある音楽祭として持続的に発展させていくためには、強固な実行体制が求められます。東京都交響楽団が培ってきた音楽的財産と、東京芸術劇場と豊島区の持つそれぞれの強みを生かし、そこに官民を問わず様々な主体の参画を求めることで、東京 2020 大会のレガシーとしての意義を、より確かなものとしてまいります。

よってここに、TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭] 実行委員会の設立を發起します。

令和 4 年 (2022 年) 2 月 1 日